



御堂筋のカタリ

絵・文 熱田親憲

当たる浦合伯さん。地図のほか、渡邊家の関係資料や大阪駅停車場付近の写真なども持ち込まれ、4人は瞬時にタイムスリップしてしまった。

明治7年に大阪に鉄道が開通し、西成郡曾根崎村天童に初代大阪駅ができた。この北部にあたる北野村、仁村は江戸時代、田んぼと沼地ばかりであったが、人口増加とともに埋め立てられた。「埋め田」転じて「梅田」になったといわれているのも、うなずける。

感じられる。この近代化の礎になったのが、江戸時代の蛭川である。蛭川は堂島川の支流として網にしていたという。笠町から堂島川に並行して福島村方面に流れており、沿岸に堂島新地、曾根崎新地を抱えて、水運が伝わっているという。文獻が残っていないので、思いが広がるばかりであった。そして近松の「心中天の網島」の名残、成より短刀を拝受したほの橋づくしを生み、「曾

近代発展する大阪の息吹

西側の田蓑橋の手前には運河入り口があり、蛭川に架かる出入橋をくぐる停車場西側の船着き場につく。

根崎心中」の蛭川新地が衛門を世襲して18代目になる「渡邊家」は、昔も今も大阪の有力者であることに間違いはない。

近代都市へ発展する大阪の息吹が、それとなく

を担う渡辺橋にかかわったと伝えられている渡邊中ノ島駅まで走る予定である。地下鉄の渡辺橋駅

この大阪駅の停車場に直結していたのが渡辺橋で、北に進むと蛭川に架かる桜橋があり、そこを更に進むと停車場前広場に出る。今の四つ橋筋がメーンだったようだ。

大正時代、曾根崎新地を抱えて、水運が伝わっているという。文獻が残っていないので、思いが広がるばかりであった。そして近松の「心中天の網島」の名残、成より短刀を拝受したほの橋づくしを生み、「曾

大正時代、曾根崎新地を抱えて、水運が伝わっているという。文獻が残っていないので、思いが広がるばかりであった。そして近松の「心中天の網島」の名残、成より短刀を拝受したほの橋づくしを生み、「曾

いま、大阪駅前第一ビル11階のオフィスの小会議室で、後期高齢者準備軍4人が、明治14(1881)年の古地図のコピ

を更に進むと停車場前広場に出る。今の四つ橋筋がメーンだったようだ。



と天神橋付近に「渡辺の